



参考文献
 ・鈴木克明・合田美子(監訳)(2013)リーサー・R&デンブシー・J(編著)(2012)インストラクショナルデザインとテクノロジー:教える技術の動向と課題(仮)(第3版). 京都:北大路書房:第2部,第4部,第31章,第32章参照
 ・鈴木克明(2013). 教育メディア研究の温故知新. 日本教育メディア研究, 19(2), 37-45.

メディアとしての教授工学
教授工学=教育メディア

- ・1990~1910: 起源
- ・1910~1920年代: 視覚教育 → 「見る経験」を通じた教育のエンリッチメント
- ・1920年代後半~1940年代: 視覚から聴覚教育へ
- ・~1950年代: テレビの普及とともに視聴覚教育

プロセスとしての教授工学

1963年 (アメリカの視聴覚教育部会(現在は全米教育工学コミュニケーション学会:AECT))

- ・学習のプロセスを制御するメッセージの設計や使用に焦点
- ・設計し使用するとき踏むべき一連のステップ(計画, 制作, 選択, 利用, 管理)の特定

1977年 (AECT)

- ・教育工学は、人間の学習のあらゆる面に関与する諸問題を分析しそれらの問題に対する解決を考案し実行し評価し運営するための、人、手順、アイデア、機器(devices), 組織に関わる複雑で統合されたプロセスである。

1994年 (AECT)

- ・教授工学は、学習のためのプロセスとリソースについての設計、開発、利用、管理、ならびに評価に関する理論と実践である。

2008年 (AECT)

- ・教育工学とは、適切な工学的プロセスとリソースを創造し利用し管理していくことによって、学習を促進しパフォーマンスを向上させるための研究と倫理的実践である。

インストラクションよりもむしろ学習を強調

システムの(「複雑」「統合」)なデザインのプロセスを重要視

他の専門用語 → 人間の学習の問題や解決策 → パフォーマンス改善との関連で最近よく使われる用語

教育とメディアを分けない → 学習のための資源

目的として学習の向上 → 幅広い教授法 (講義や討論 + オープンエンドな学習)

システムのなプロセス指向でない → 「システムの」を排除

教授的介入: 学習を促進すること → 学習者に施される教授的介入が何であるかにかかわらず、何を学ぶことになるのかを決める上で来たる学習者の重要な役割

従来の設計、開発、評価 → 創造、利用、管理

- ・創造の機能: 分析、設計、開発、実施、評価を含む教授的介入や学習環境の産出に伴うすべてのステップ
- ・利用の機能: 教授法や教材の選択、普及、組織化を包含
- ・管理の機能: プロジェクト、実施システム、人事、情報の管理

1970年 (教授工学委員会)

- ・教授工学は、教師、教科書や黒板と並んで、教授目的のために使われうるコミュニケーション革命から生まれたメディアを意味して使われることが多い。…教授工学の要素には、テレビや映画、オーバー・ヘッド・プロジェクタ(OHP), コンピュータ、ハードウェアとソフトウェア、その他の項目を含んでいる。…
- ・より効果的なインストラクションをもたらすために人間の、そして、人間以外のリソースの組み合わせを用い、学習とコミュニケーションに関する研究をもとに、特定の目標に関して学習することと教えることの全体的なプロセスを設計し、実施し、そして評価するシステムのな方法である。

「システムの」なデザインのプロセス重視

人間と人間以外のリソースの使用 → メディアの役割の軽視

計画プロセスの中に分析フェーズに初めて言及

実践だけでなく調査・研究の領域を強調

倫理的: 高い倫理的レベルを維持 → AECT倫理規約

パフォーマンス向上: 習得した新しいスキルや知識の応用を支援

2008年定義の優れている点: システム的なプロセス & 技術的資源の使用が不可欠 + ヒューマンパフォーマンステクノロジー → 本書の定義へ

鈴木克明・合田美子(監訳)(2013)リーサー・R&デンプシー・J(編著)(2012)インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題(仮)(第3版). 京都: 北大路書房: 第1章参照